

## 【奈良文化幼稚園】令和4年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

<b>教育目標</b>	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
-------------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	「遊びこそ学び」を理念に、丈夫で伸びやかな「心と体」を育む教育を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の実現に向けた取り組みを行った。	B	A	日々の園生活を通して、一人ひとりの育ちが深められるよう職員が話し合いを通して、情報共有を行う。	園児の様子を学年を越えて共有し、さらに取り組みを進める。園生活の様子を保護者に詳しく発信したい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、遊びの環境を充実させる。	園庭環境は、子どもの動きに合わせて、調整を続けた。ふかふか土づくりを通して、土壌改善を行った。講師先生の指導を受けて環境を整えた。	A		よりよい環境になるよう講師先生の指導を受けた。さらに、教員それぞれがアイデアを出すことで、よりよい環境になるよう努める。	園庭環境は、経年劣化による改良が必要になる。専門家を含めたプロジェクトチームを編成し、環境整備を進めていきたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特性を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を作成できたか。	「わんぱくの森」の活動を中心に各学年の発達に応じた取り組みを進め、教育要領に基づいた教育課程の編成を行った。	A		職員間で、園児の実態を把握し、発達の段階に即した教育課程の実現に取り組んだ。	実態を知ることで、園児の発達について把握できるようになった。今後も、丁寧な保育を心がけ、意欲的に活動させたい。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	園児一人ひとりの姿を学年ごと、そして園全体を通して職員間で話し合いを行い、教育活動を見直した。	A		クラスや学年の教育活動の中で園児がのびのびと活動を行うことができたか。	子どもの実態から新しい試みができるよう園全体で話し合いを続けてきた今後はさらに研修を行う予定である。
		①基本的な生活指導	自分の体を守るための生活習慣が身につくように指導する。	園児が気持ちよく生活でき、生活習慣が身につくよう取り組んだ。さらに、家庭との連絡を密にして園での様子を詳しく伝えることで信頼関係ができるよう取り組んだ。	A	A	園児が生活を意識し、習慣づけることができるよう実践を行った。写真付きのおたよりを作成し、個人の様子や育ちを保護者と共有した。	生活習慣の目標を家庭と共有することで、生活習慣を園だけではなく、家庭でも実践し共有できるようになった。
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的に環境を構成し、また活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	子ども達が遊びたいと思う環境を作ることで、興味・関心が増し個々の活動が活発になるよう環境を工夫した。	A		遊びこめる環境を整え、子どもが主体的に活動し、興味・関心を持つことができる環境づくりを行ってきた。	クラスや学年での取り組みを園全体に広げる。さらに活発に活動範囲が広がるように環境を整える。

I 教育活動に関するもの

(2) 指導の状況

③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解し、指導を展開する。	園児一人ひとりを詳しく見つけ発達状況を把握することで個々の性格を知り、一人ひとりに合った指導を考えることができた。	A
④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子ども達の興味・関心を把握し子どもが自ら考えたり、試したりすることができる遊びを実践することで充実感を持たせることができた。	B
⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	新型コロナの影響が心配されるなか、保護者出席のお誕生日会が実施できた。保育参観や音楽会も各家庭の参観人数を増やして行うことができた。	B
⑥体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	毎週の体育遊びの取り組みから日々の遊びも広がりが見られるようになった。その結果、縄跳びやボール遊び、鬼ごっこなど運動遊びが自由遊びの中でも広がった。	A
⑦地域での教育活動の充実	地域とのつながりを保育に活かすことができたか。	みどりの幼稚園では地域の公園に出かけた。葛城市のまちづくり推進大会のオープニングに年長児が参加し、和太鼓演奏を体験させていただいた。	B
⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	環境整備を意識するとともに、玩具の数を増やした。さらに園児自身が遊びを選択できるよう遊ぶ環境の改善に努めた。	A
⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回読み聞かせをすることで子ども達が楽しむ機会がつけられたか。	保育時間に絵本と触れる時間を設けることで、絵本への興味が広がった。1日1冊以上読み聞かせを行い、絵本の面白さを知らせることで絵本の貸し出し数が増加した。	A
⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士の先生による行動観察とカンファレンスを行い支援の在り方について検討した。療育の担当者と連絡をとり、園児にあった支援が行えるようにした。	A

A

個々の成長や発達に応じた指導のあり方を考えた。実践に移すことで成長が感じられた。	全教職員が子どもの発達段階を把握し、きめ細やかに一貫した指導ができるよう研修を深めたい。
自由保育と設定保育のバランスを考えながら、遊び込むための時間の確保に努めた。	自由遊びを工夫し主体的に活動できるように取り組みを進めたい。教員が一人ひとりの姿を読み取る力が向上するよう研修を深めたい。
少しずつではあるが、保護者出席の行事を行い、お誕生日会や保育参観を園内にお越しいただき参観を実施した。	来年度は、園生活を見たいと願う保護者の希望が叶うよう園行事を工夫し、開かれた幼稚園を目指していきたい。
日頃の遊びから運動会の種目を計画していった。子ども達が積極的に体を動かし、縄跳び、ボール遊び、鬼ごっこで遊ぶ姿が見られた。	体育遊びの講師先生による研修を実施し、楽しい運動遊びや体力づくりについて、職員の力量の向上に努めたい。
地域の人との交流する機会を持つことにより地域の人のやさしさに触れ、本園を知っていたくきっかけとなった。	来年度、新型コロナウイルスが落ち着けば、安心できる環境の中で、地域に出かける機会をもっと増やしていきたい。
環境を整備し子ども達が夢中になって遊び込む姿を見ることができたか。自分なりの目標を持って、環境を作ったか。	自然環境の中で子ども達が生き生きと活動できるように、園庭を改良しよりよい環境になるよう整えていきたい。
読んだ本を読書カードに記入することで、自分の頑張りが見え、絵本に親しむことができた。本園は、様々な絵本が豊富に用意されている。園児にとって良い環境である。	保護者に絵本の修理をしていただき、園児に人気のほんがよみがえった。今後も、よりよい絵本の精選に努めたい。
配慮が必要な園児の実態を職員全員が把握できているか。情報交換を密にし、その子に合った配慮を行った。	全職員が個々の配慮について共通理解を行った。支援が必要な園児が増えてきているので共通理解が必要である。

## 【奈良文化幼稚園】令和4年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	目標を共有し、分業と連携を効果的に行い、成果をあげる。	園行事の実施や保育について全員で取り組んでいる。自分の役割を把握し、全員が協力し意欲をもって活動することができた。	B	B	全職員が日常保育でに連携を深めて保育に取り組むことができたか。行事を進めるにあたって段取りよく準備を行った。	教職員が個々の経験から保育の楽しさを語るができるよう、園児一人ひとりを見つめていきたい。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識ができ、募集活動を積極的に行う。	入園について、たくさんの応募をいただいたが、抽選での決定となった。今後も入園希望者が増えるよう中身の濃い取り組みを進めていきたい。	A		認定こども園に移行するにあたってクラス数を減少させた。入園希望者のニーズに応えることができたか。	認定こども園になり開園時間が長くなるので、幼稚園の楽しさや保育の様子、教育的意義を伝えていきたい。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、協力し実行しているか。	クラス担任も補助の職員も報告・連絡・相談を密にして力を合わせている。全教職員が意識して業務にあたることができた。	A		全教職員が進捗状況を把握し、同じ歩調で運営を進めた。必要なことに気づいて協力することができたか。	職員会議での話し合いを通じて共通理解を行い、情報の共有を図っていかなければならない。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係では必要に応じて協議・分担して、効率よく運営を進めているか。	園務を分担して業務遂行を行った。仕事量に差はあったが、全員が協力して精一杯取り組んだ。	B		分掌の内容を各自が把握することができたか。事前準備を適切に行った。	教職員全員が常に全体を見渡し、不足している部分について、協力できる体制を整えて行きたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	回数を減らし、効率の良い会議を図る。	職員会議の時間短縮を目指し、内容を厳選した。会議がスムーズに進み、理解が深まるよう会議録はメール配信で共有を図った。	B		会議の内容については、一斉メールで確認を行った。会議が活発になるよう会議内容を把握した。変更点の伝達はきちんと行った。	会議の時間を縮小するため、会議前に案件を提出し、事前に目を通すことで中身の濃い会議を実施したい。
		⑥職場の人間関係	保育の楽しさを語り合う。	保育研修の時間や放課後の話し合いを通して人間関係を深めることができた。コロナ収束時には定期的に、コミュニケーションを深める場を設定したい。	A		意見交換を行う中で保育の楽しさを語りあった。一人ひとりが、多くの視点から教育を見つめることができた。	今後も一人ひとりが積極的な意見交換ができるような人間関係を築き、園務の充実を図りたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	テーマに沿った研修をキャリアに応じて、深める。	わんぱくの森の改良に向けて外部講師を定期的に招き、ワークショップや園内研修会を実施した。認定こども園移行についても、内容の濃い研修ができた。	A	A	外部講師から示唆をいただくことで新たな視点を持つことができた。	継続的に教職員の研修を行い、バランスのとれた保育と、教育の質の向上に努めたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、積極的に学習の機会をもつ。	奈良っこはぐくみ自然保育認証団体に認められ自然を保育に活かした取り組みを進めている。認定こども園の見学も行い、実際の保育について研修を行った。	A		先進園での研修から、本園に合ったものにアレンジして保育を行うとともに、保育について検討を重ねることができたか。	他園で学んだ内容を報告書にまとめ、職員全員が共有する機会を作り、一人ひとりの力量を上げていきたい。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で活かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園内で報告し実際の保育に照らし合わせることで保育の幅を広げることができた。	B		他園での取り組みを学んだ教職員を中心に、保育を見つめなおす機会を持つことができたか。	実践を通して子どもの活動を把握し、見えてきた改善点や反省点から、環境を改善していかなければならない。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルを見直すとともに避難がスムーズに進むよう訓練を実施した。	A	A	本年度も事前に打ち合わせを行わずに訓練を実施することで、問題点が見つけられた。	教職員一人ひとりが自分の役割をしっかりと把握し、子どもの安全を第一に安全計画を実施していきたい。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、安全指導を行い、確認・改善に努めている。	火災・地震・不審者対応など様々な場面を想定した訓練を実施することができた。	B		様々な状況を想定した避難訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができたか。	園児引き渡しカードを使い保護者を含めた合同訓練なども計画していきたい。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、教職員の役割分担を徹底することで緊急の対応ができるようにした。	A		訓練実施時に教職員が実際にとった行動に対して意見交換を行い、問題点を指摘しあった。	教職員が状況に合わせて、一人ひとりが素早い対応ができるよう取り組みを進めたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	警察や消防署・火災報知器業者と一緒に安全確認を行うことで連携を深めることができた。	A		消防署員から指導を仰ぎ、心肺蘇生法や緊急時の対応を学ぶことができた。	訓練を定期的に取り入れることで、初期対応について指導を受けることが出来た。今後も関係機関と連絡を密に連携していきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について健康診断を実施していただき指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取り、園児のコロナ感染時も状況に即応した対応をとった。	今後も、子ども達が安全で健康に生活できるように、園医や保健所との連携を密に日々安全な生活を心がけたい。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	コロナウイルスや、流行性感冒病の予防対策について、日常の手洗い・うがい・消毒等を家庭に呼びかけ、子ども達の健康を守った。	A		流行病による情報や今後の対策などの情報発信を速やかに行い、家庭と協力して安全対策を行うことができた。	コロナウイルス対策を中心に流行病に関する情報について、保護者が安心できるよう情報を迅速に発信したい。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	葛城市のまちづくり推進大会のオープニングに年長児が参加し、和太鼓演奏を行うことで地域の皆様に見ていただくことができた。	A	A	地域のイベントに参加し、園児の演技についても高評価をいただくことができた。	地域の方々に協力をいただきイベント等に参加する機会を増やしたい。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA本部役員の方々にゆっくりっくお楽しみ会で忍者のくいを企画・運営していただき園児たちは大喜びであった。PTAのクラブ活動やパンDAYも園の行事に組み入れて計画し、連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員と園が密接に連携を重ね、PTA活動が充実したものになったか。今後も一緒に活動を続けていきたい。	園の行事内容を早めに保護者に連絡し、計画・準備を行うことで、連携が取りやすい環境を作りたい。
		③幼小・高大連携	今日的課題に向き合い、各校種との連携を深める。	小学校との連絡会を密にした。奈良文化高等学校・奈良学園大学から100名を超える学生の幼稚園実習を受け入れた。	B		各学校との連絡を密にすることで情報共有を進めることができたか。	就学情報は共有できたが、学生の実習は人数が多すぎるため園児が落ち着かないと保護者から厳しいご意見をいただいた。人数を減らす方法を模索したい。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートについてを第三者評価を行う。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、関係者評価を行った。	A		園教育アンケートの結果を基に、本園の改善点について指摘していただいた。	保護者会や入園説明会で園の方針や認定こども園への移行説明を行った。今後も、保護者アンケートを実施し、たくさんの意見をいただきたい。
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	点検をこまめに行い、不備をなくす。	日々、各担任・学年で担当箇所を決めて安全点検や清掃を行っている。	A	A	園庭や保育室を清潔に保ち、安全な環境を心がけた。一人ひとりが責任をもって安全点検に取り組むことができた。	環境に対する美化意識を持ち、担当場所を毎日清潔に維持できるよう取り組む。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	遊具の安全管理を徹底する。	園児が登園する前に、園庭の遊具や砂場の安全点検を行い、速やかな修繕対応を行った。	A		教職員で点検及び修繕を行っている。遊具の老朽化については園児の安全を第一に、園庭管理アドバイザーと改修に努めている。	園庭管理アドバイザーからアドバイスをいただきながら毎日の安全性を保ちたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	細かく分類して文書を保管するとともに、必要な時に参照することができるようにした。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、誰もが見やすい文書づくりに努めた。	PCも活用し、効率よい文書作成や文書管理を行い、職員間の情報管理を徹底させたい。
		②公文書の作成	速やかに作成を行う。	期日を厳守することはもちろんであるが、速やかな文書作成を行い対応した。	A		幼児教育無償化による事務処理を間違えることなく確実に進めることができた。	今後は、認定こども園に関する提出書類について、保護者に丁寧に説明し、正確に処理していきたい。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人写真をはじめ、個人情報の取扱には細心の注意を払い、不要な情報が伝わらないよう全教職員が注意した。	A		不特定多数が対象のホームページでは、常に業者と協力し、改良を重ねることができたか。	PCデータにパスワードをつけるなど、セキュリティ管理をてってほしい。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事後の取材記事掲載など、情報発信を速やかに行った。	A		バスキャッチシステムを導入することでスマートフォンから情報が見やすくなった。	掲載する情報が保護者のニーズに合うよう努力する。PC版と携帯版の差がないよう常に確認を行う。